

令和5年度事業報告書（令和5年5月1日～令和6年4月30日）

（敬称略）

《事業の概要》

写真を通じて日本文化の進展に寄与することを目的に、令和5年度は次の事業を行った

《中長期戦略企画室》

1. 中長期戦略企画室の業務を老朽化した日本写真会館対応に集中
 - ・これまで主要テーマとしてきた「今後の当協会の方向性(未来像)」は、各部会での議論をもとに会長・副会長会議等で協議を進めた
2. 日本写真会館・建替えを第77回定時会員総会で決議、スターツ・グループに発注を決定
 - ・土地信託による建替えとし、スターツ信託と信託基本協定を締結した(令和5年7月)。その後はスターツ・グループと連携し、令和7年8月以降予定の解体工事開始に向けたスケジュールにもとづき、準備を進めた。テナントとの定期賃貸借契約はすべて締結を完了した

《総務部》

1. 令和4年度功労者表彰/令和5年度功労賞贈呈者の決定
 - ① 第77回定時会員総会にて令和4年度功労賞受賞1団体、7名の表彰を行うとともに、令和4年秋・黄綬褒章受章者2名を紹介し、その栄誉を称えた
 - ② 令和5年度功労賞贈呈候補者3名を選出し、令和5年度第4回理事会にて議決・承認、併せて令和5年秋・藍綬褒章受章者1名、黄綬褒章受章者1名及び、令和6年春・旭日双光章(叙勲)受章者1名と併せて第78回定時会員総会にて表彰する
2. 全国ブロック、都道府県との合同会議を令和5年度は2回開催し、連携強化を推進した
(12月次年度計画設定に向けて、令和6年4月次年度計画の準備状況の共有化と意見交換の場として、ともにオンライン会議システムにて開催)
3. 写館協との事業連携(アライアンス)を推進した
 - ① 令和6年能登半島地震対応…写館協と連携し、スピーディーに義援金の支援を会員に発信した
 - ② 第1回学校写真フォーラム(令和6年5月28日)開催を推進した(後述・文化部の項参照)
4. 関連団体との情報交換と関係強化
 - ① 日本写真著作権協会(JPCA)との連携強化により、会員の著作権意識の浸透を推進した
 - ・生成AI画像に関する最新情報と著作権の現状及び著作権者IDの有効活用をテーマとするセミナー(令和6年1月23日/アルカディア市ヶ谷 参加人数・150名)を開催した
 - ・日本写真著作権協会月例会議への出席 / JPCA ニュース の写真文化同梱、全会員に配布
5. 国際交流の推進・WPCの認知度向上策とWPC2024への参画
 - ・WPC2024国内応募総数 230点
 - ・WPC2024授賞式(4月26日～28日 米国・テキサスで開催)
ネイチャー/ワイルドライフ部門8位・右近倫太郎 ルポルターージュ/フォトジャーナリズム部門7位・清水謙一 ウェディングオープン部門6位・池内基曜 ベストオブネイション賞(国ごとのベストアワード)・右近倫太郎
6. 日本写真会館テナント管理徹底 : 管理業務委託先の(株)ジェイコとの連携を強化した

《財務部》

1. 令和4年度の公益目的支出計画実施報告書を内閣府へ令和5年7月提出・受理された
2. 教育訓練部「夏期写真大学」、文化部「全国展フォトコンテスト」等の主要事業については、収支見通しもしくは実績をもとに的確な予算設定に向けた指針を協議した
3. 財務・月度管理の徹底 : 財務部・徳田経理顧問・事務局と毎月度実施した
4. 令和6年度予算の策定 : 予算案を策定し、令和5年度第4回理事会にて議決承認された

《文化部》

1. 全国展フォトコンテスト(全国写真展覧会)の実施

① 第69回(表彰式・入賞入選作品展)

- ・応募数 : 2,102点(対前年105%)、応募件数 : 906件(対前年88%)
- ・審査員 : 野町和嘉、秦達夫、田中秀幸、小林かずとも、朝風恵子、川地清広
- ・入賞入選 : 入賞26点、入選73点、優秀賞15点 計114点
- ・表彰式 : 令和5年5月28日(日) 東京都美術館講堂(東京・上野)
- ・入賞入選作品展、会場・会期・入場者数

会場	会期	入場者数
東京都美術館(東京・上野)	令和5年5月28日(日)～6月4日(日)	1,530名
富士フィルムフォトサロン大阪	令和5年9月22日(金)～9月28日(木)	2,108名
ポートレートギャラリー	令和5年12月21日(木)～12月27日(水)	476名
入場者合計		4,114名

- ・東京都美術館では、トライアルとしてブロック選抜展を併催(6ブロック参加)した

② 第70回(募集・審査)

- ・ 募集期間 : 令和5年12月7日(木)~令和6年2月7日(水)
- ・ 応募料 : 単写真...1,500円/点、組写真...2,500円/組、学生の部...500円/人
- ・ 応募数 : 2,131点(対前年101%)、応募件数 : 914件(対前年101%)
- ・ 審査員 : 米美知子、菅原隆治、田中秀幸、小林かずとも、東山治男、ひしくにお
- ・ 入賞入選 : 入賞26点・入選74点・優秀賞15点 計115点

賞	氏名	都道府県名	部門	タイトル
内閣総理大臣賞	相川頼之	千葉県	第3部	京の夕暮れ
文部科学大臣賞	松本生夫	大阪府	第1部	心機一転
文部科学大臣賞	下條良菜	福岡県	学生の部	朝日を浴びて
日本写真文化協会賞	新田淳郎	東京都	第2部	不安な旅
下岡蓮杖賞	前川悦雄	三重県	第1部	威嚇
奥田昇きもの写真大賞	大井景子	神奈川県	第3部	美しき20歳

2. 第72回「写真の日」記念講演の開催

(第69回全国展フォトコンテス表彰式(5月28日・東京都美術館)に併設して開催)

- ・ 講師 : 写真家 野町和嘉 ・ 演題 : 「私が視てきた世界」-サハラからアンデスまで-
- ・ 参加人数 : 80名

3. ポートレートギャラリー運営

① ポートレートギャラリー展示作品申込み・実施状況(令和5年1月~12月迄の1年間)

新型コロナウイルス感染症の影響は治まり、50会期全てを開催した

展示申込み概況は、申込み数64 選考合格50 落選14(倍率1.3倍)

② 写真展開催実績 : 企画展1件、公募展49件 計50件(令和5年度)

〈公募展〉・主催 : 写真学校2、関連団体1、一般団体32、一般個人14 計49件

- ・ 内容 : 風景16(32%)、山岳3(6%)、花2(4%)、動物2(4%)、鉄道2(4%)、ドキュメント3(6%)
人物3(6%)、文化財1(2%)、混在18(36%)

4. スクールフォトビジネス対策の推進

① 写館協及び全日本学校アルバム印刷組合との協働により、卒業アルバムの文化を継承していくために価格の適正化を図るべく、「学校写真フォーラム委員会」を上げた。第1回フォーラムを5月28日に開催を決定し、準備を進めた

② NPO法人「よみがえれ卒業アルバム」事業への協力を推進した

5. 写真の普及並びに写真文化・芸術に関する調査

① 日本写真映像専門学校卒業制作優秀作品の表彰

日本写真文化協会会長賞 : 写真コミュニケーション学科・写真表現コース 伊藤円「Home」

写真コミュニケーション学科・営業写真コース 市橋ふみ「丹精込めて」

フォトファイン学科 チンクンヨウ「石に音色は刻まれる」

日本写真文化協会奨励賞 : 写真コミュニケーション学科 留田啓太郎「アダルティズム」

6. 写真の祖 下岡蓮杖翁の顕彰

- ・ 墓参会 : 令和6年3月3日(日)染井霊園(東京・巣鴨) 参加28名

《広報部》

1. 広報部は、広報部会にて情報共有・活動内容の大筋を検討し、その上で出版、IT・広報の2委員会で詳細を協議・遂行する体制で運営した

2. 文協の知名度・ステイタス向上のための活動推進...情報発信と収集・共有の窓口として活動を展開した

3. 出版関係 : 機関誌「写真文化」の更なる内容の充実及び、全国会員からの情報収集基盤の確立を推進した

① 「写真文化」では、新規連載企画「新写真文化」にて、新規トレンドを紹介した

② 「写真文化」発行減(6回/年→4回/年)の対応として、メールマガジン「写真文化+(プラス)」を令和5年度4回、タイムリーに発信した

③ 写館協編集部との情報交換

- ・ 定期的な情報交換により、編集企画の独自性を確保した

4. IT広報関係 :

① メールマガジン「写真文化+(プラス)」企画推進と未収都道府県からのメールアドレス収集を促進した

② ホームページのリニューアルを推進。「写真文化」をお客様目線で提案する内容を目指し、更新した

③ 全国展フォトコンテスト・会長年頭所感等のニュースリリースを発行し、主要事業の対外告知を推進した

《教育訓練部》

1. 令和5年度第60回夏期写真大学講座の開催

① コロナ感染症が沈静化し、4年振りに開催。合計57名(内訳 : 基礎14名、撮影14名、成人振付撮影16名、学校写真13名)が受講した

② 第60回の収支は黒字を確保した

③ 受講後にオンラインミーティングを5回開催、延べ61名参加。アフターフォロー策の充実を図ることができた

2. 令和6年度・第61回夏期写真大学講座実施企画策定と対外告知の実施

① 期間は3日、基礎コース・撮影コース・成人振付撮影コース・学校写真コースの4コースを設定、技能検定1・2級を目指す内容とする等、前回・第60回の企画をベース見直しを行い、カリキュラム設定した

- ② 実施要項を作成し、機関誌「写真文化」とともに当協会会員に送付、また、ホームページにもアップし、告知を開始した
3. 令和5年度実施・技能検定「写真職種・肖像写真デジタル作業(1.2級)の受検者の状況と今後の対応
- ① 受検者数減により、1、2級は隔年の実施となったが、令和5年度は実施年度であり、受検者数は1級50名2級19名の合計69名であった
 - ② 兵庫県及び神戸市では学校アルバムの入札に技能検定の資格が条件になったとの情報をもとに技能検定実施への関心が高まり、教育訓練部では、開催ノウハウを提供するオンライン説明会(4月30日)を行い、ブロック長、都道府県会長・理事長を中心に約30名が出席した。継続的にフォローしていくこととした